

中

平成三十年度 久留米大学附設中学校入学試験問題

国語科

注意

- 1 解答はすべて解答用紙に記入せよ。解答用紙だけを提出すること。
- 2 〔一〕〔六〕の各問いで、字数を指定している場合は、句読点などを含んだ字数である。

〔一〕設問と解答欄は、解答用紙(全2の1)にある。

〔二〕次の文章を読み、後の問いに答えよ。

ある あさ 王さまは、石の **かべ**に **一びき**の **かたつむり**を **みつ**けました。かたつむりが **つ**のを **ふ**つてるのを **み**て **いる**と、王さまは、子どもの **じぶん**、**なん**だか、**か**たつむりの **う**たを **よ**く **う**たつた **こ**とを **おも**いだしました。

「でんでん 虫々 つの **出**せや **だ**つたかなあ」と、いろいろ **かん**がえましたが、**ち**つとも **そ**の **う**たは **おも**いだせませんでした。

「お前たち、でんでんむしの **う**た **し**らないか」と、おそばの **も**のに **き**いても、「しりません」といって **A**を **か**しげ **て** **い**ます。王さまは、

「でんでん **む**しむし」と **口**の **中**で **い**いながら、**に**わを **ぐ** **る**りと **ま**わつて **き**ました。それでも **おも**いだせないの **で**、**と**うとう **お**こつて **か**たつむりを **つ**ぶして **しま**おうと **し** **た**とき、ふつと **お**うさまの **こ**ころに、

「でんでん **む**しむし **つ**の **ふ**れよ、**夜**あけに **ぬ**すどが **や**つ **て** **く**る」と **い**う **う**たが、**う**かびました。それと **一**しよに、**そ**の **う**たを、**よ**く **う**たつて **B**、**や**さしい **お**母さん **の** **こ**とも **おも**いだしました。

そこで **王**さまは、**か**たつむりを **つ**ぶさないで、**青**い **は**の **上**に **そ**つと **の**せて **や**りました。

〔新美南吉童話集〕より〕

問一 傍線部①「かべに」は、どの語にかかってゆくか。次のアウから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 一びきの
- イ かたつむりを
- ウ みつけました

問二 傍線部②「じぶん」を漢字に改めよ。

問三 本文中の**A**に、適切な漢字一字を入れよ。

問四 本文中の**B**に、適切な言葉を入れよ。ただし、「くれた」を敬語表現にした五字以内の言葉である。

問五 波線部a、eの動詞の中で、他と性質・用法の違うものをつ選び、記号で答えよ。

- a いる
- b さい
- c き
- d しまお
- e やり

〔三〕ある漢和辞典で「氣」を調べた。後の問いに答えよ。

問一 「氣」は何画の字か、漢数字で答えよ。

問二 次のように説明された熟語があった。「氣」の下に漢字一字を補い、熟語を完成させよ。

(例) 氣力 || 物事を行うのに耐えうる力。

- 1 氣() || 意識を失うこと。
- 2 氣() || けだかいおもむき。
- 3 氣() || 信念を守つて他に屈しないこと。
- 4 氣() || そうらしいと感じられるさま。

問三 「氣」を使った、次の四字熟語は、それぞれどのような様子を表す言葉か、答えよ。ただし、1は十五字以内、2は十字以内とする。

- 1 和氣藹々(わきあいあい)
- 2 意氣消沈

〔四〕次の文章を読み、後の問いに答えよ。

敬老の日と称するへんてこりんな祝日を定めたのは、いったいどのどいつだろう、と思う。よっぽど年寄りを粗末してきたやつが、そろそろ自分も粗末にされる老境に近づいて、それであわてて法制化したんじゃないか、とカンぐりたくなるような、じつにどうも人をバカにしたような祝日である。解説書を読むと、

「多年にわたって社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う国民の祝日」

と出ている。文字の上からだけ見ているぶんには、おおせごもつとも、一点非のうちどころのない結構な趣旨である。①それだけに

いいようのないしらじらしさがつきまといつて離れない。理念と現実とのへだたりがあまりにも大きすぎるために、せっかくの趣旨が空虚に聞こえるということも事実だろうが、問題は②それだけではない。老人といえは反射的に「敬愛」と答え、「長寿を祝う」と続く発想そのものに偽善がひそんでいる。

人間の「老い」というものの姿を直視することはすこぶる勇気を要する精神作業だが、その勇気を持つことがほんとうの(敬老)の第一歩なのである。敬愛したくても、とてもじゃないけどそんな気になれないというのが、老いというものの本質的な実相であり、長寿を祝うどころか、早く死んでもらいたいとさえ思うような、そういう悲惨な状態をハッキリ認識した上で、**A**老人を見捨てないという忍耐が、老人問題のすべてである。

一年に一日だけ、おじいちゃんおめでとうなどとネコなで声をだ

すことは、人間の尊厳を傷つけるものである。若いというどうにもならない無残な訪問者によって、確実に破壊されてゆく肉体と精神の、^③そのボロぎれのような姿もまた人間の尊厳の一つにほかならない。

老化というものが人間本来の営みである以上、^④老人問題はつねに古くて新しい永遠の問題である。

そんなことをいっても、**B**「住宅事情がこんなあんばいなんだし、国の福祉政策が貧困だし——」というのは責任転嫁にすぎない。

住宅事情や福祉政策が理想的な形にととのつたら老人問題は解決するかという点、断じてそうはいかない。

老人が必要とするものは、住居でもなければ公共交通の無料パスでもない。彼らが求めているものはたった一つ、それは絆である。

^⑤そのために家族に求められるものは、老人に対する「敬」でもなければ「愛」でもない。**C**「敬」も「愛」も、ないよりあつたほうが百万倍もいいことは当然だけれども、現実には直面した家族に必要なものは「忍」の一字である。その努力をいっさい放棄して、それで国の政治が悪いんだと叫ぶのはムシがよすぎる。甘つたれるのもいいかげんにしろ、と突っぱねるところは突っぱねればいいものを、そうもいかないもんだから、^⑥「敬老の日」なぞという偽善の日を設けてお（ ）をにごすような、つまりそこるところにこそ政治の貧困がある。

(江國滋「敬老の日」)

【注】 ③ 趣旨 || 言おうとしていることから。

④ 偽善 || 見せかけだけでいつわりの善行。

⑤ 放棄 || 投げ出してやめること。

問一 本文中の **A** **C** に入る言葉を、次のア〜カから選び、それぞれ記号で答えよ。

- ア はたして イ むろん ウ つまり
エ なおかつ オ たぶん カ なにしる

問二 傍線部①・②の「それ」が表す内容を、「〜こと。」に続くように、それぞれ二十文字以内で分かりやすく説明せよ。

問三 傍線部③「そのボロぎれのような姿もまた人間の尊厳の一つにほかならない」とあるが、どういうことか。次のア〜オからふさわしいもの一つを選び、記号で答えよ。

ア 若いとともに心が弱ったり身体がみじくなるのは自然のなりゆきであり、その衰えまで含めた人間の存在のありのままの貴さを受け容れて向かい合うべきだということ。

イ 老人の肉体・精神における機能低下は仕方ないことであり、いずれ自分も誰かに助けてもらうことを考えたら、今、老人をかばい助けるのは当然だということ。

ウ 若いゆく老人の心身の破壊は止まらないが、過度な干渉はかえって老人の自尊心を傷つけるため、つかず離れずの距離を保つべきであること。

エ 若いが進み病苦と戦う老人の姿は見るにしのびないものであるが、その戦いの中にこそ人間の生きる輝きはあるので、あえて手助けはせずに見守るべきだということ。

オ 老化にともなう心身の衰えは見苦しいが、それが長年社会のために尽くした結果である場合には、感謝してその見苦しさをこそ敬うべきであるということ。

問四 傍線部④「老人問題はつねに古くて新しい永遠の問題である」とあるが、どういうことか。左の説明文の **I** をふさわしい表現で埋めよ。

人間は誰もがいつかは必ず老いるので、昔の人々も現代の我々もこれから先の人々も、誰もが老人問題を **I** べきであること。

問五 傍線部⑤「そのため」が表す内容を、「〜ため。」に続くよう、二十文字以内で分かりやすく説明せよ。

問六 傍線部⑥「(敬老の日)なぞという偽善の日を設けてお（ ）をにごす」について、空欄にふさわしい漢字一字を埋めて慣用語を完成させよ。

問七 傍線部⑦について、筆者が「敬老の日」を「偽善の日」と呼ぶのはなぜか。本文全体の内容をふまえた上で、理由を説明した左の文の **II**・**III** に入る表現を考えて書け。

本当の敬老とは、家族が常日頃から **II** ことなのに、「敬老の日」は、**III** から。

問八 次の文は、「国民の祝日に関する法律」の中の、「昭和の日」(4月29日)の説明である。波線部 a〜d のカタカナを漢字に直せ。

a ゲキドウの日々を b へて、c フツコウを遂げた昭和の時代を
顧み、国の ショウライに思いをいたす。

問九 次の文章を読み、後の問いに答えよ。

夕方、自宅近くの公園で、ケイコは鉄棒の逆上がりの練習をしていた。いや、正確に言うくと、ケイコは「逆上がりの練習を」ではなく、「逆上がりの練習をしている人の真似を」していたのだ。

ケイコは人の真似をするのがうまかった。だからケイコはたいして何でもできた。できる人の真似をすればいいのだし、ケイコはそれができた。さすがに百メートルを九秒台で走ることや、難しいピアノの曲を弾くことは真似できないが、学校で皆がやらされることくらいのことなら、たちまちのうちに真似できた。

もちろんケイコは逆上がりができる。それは逆上がりができる子がいるからで、ケイコは逆上がりができる子の真似ができるから、逆上がりができるのだ。跳び箱だって竹馬だってできる。

そんなケイコが「逆上がり」の練習をする真似を「しているのは、今日学校でこんなことがあったからだ」。

「ケイコちゃんは器用だね」

休み時間にミユキが話しかけてきた。ユカとアケミがその後ろにいる。

「ううん、そんなことないよ」

ケイコは最近覚えた（ケンソン）の真似をした。少しだけ困った顔をするのがポイントだ。ほめられたときには（ケンソン）する。お母さん同士のおしゃべりでよく見かけていたし、この前、六年生たちもやっていたから、^①今がチャンスだとケイコは思ったのだ。

でも、「器用だよ」と言われることがほめられているのかどうか、ケイコの中で何か引つかかるものがあった。

「えー、だって何でもできるじゃない」

「そんなことないって」

ここでうまく話題を変えればいい、とケイコは思ったが、適当な話題が思いつかなかった。

「勉強もできるし、運動も男子みたいにできるじゃない」

ミユキがそう言うと、ユカとアケミが笑った。あまり真似したくない笑いかたとケイコは思った。^②引つかかっていた何かがモヤモヤと大きくなっていく。

男子みたいにできる、というのはその通りだ。できる男子の真似をしているのだから。そういうえば、今日の体育の時間にミユキは逆上がりができなかった。ユカは竹馬に乗れない。アケミは逆上がりも竹馬も跳び箱もできない。さらにこの三人と比べると、ケイコは勉強もできる方だ。

「そんなことないって」

ケイコは前の言葉を繰り返すしかなかった。ミユキが何を言いたいのか、ユカとアケミがその隣で何を考えているのか、わからなかった。ただ、今は（ケンソン）する場面ではないということだけはわかった。

「できない人の気持ちなんてわからないでしょ」

ユカが言う。普段より低い声だった。アケミの目が一瞬ケイコをにらんだように見えた。

「そんなこと……」

言葉に詰まる。また同じことを繰り返してもだめだ。いや、ここで繰り返せば、もつとまずいことになる。

できない人の気持ちは、ケイコにはわからない。ケイコは「できる人」だったし、人の気持ちは、真似できないからだ。できない人の気持ちがわからない。人の気持ちはわからない。ケイコにとつてそれは、^Aいわれのない悪口ではなかった。ケイコ自身が、何となく、ずつと気になっていたことだった。

「行く」

ミユキの合図で三人はケイコから離れていった。

だから、^③できない人の真似をしてみようと考えたのだ。

ケイコは一人きりで「逆上がりができない私」を演じはじめた。腕をまっすぐ伸ばし、重心をぐつと下げて地面を蹴^ける。そうすれば体が持ち上がらず、逆上がりはできない。体育の時に先生が言っていたことの逆をやればいいのだ。もしくは本当にできない友達の本真似をすればいい。ケイコはそうやって何度も逆上がりをやるうとして、それでもどうしてもできない真似を続けた。首をかしげたり、疲れたような顔を試みたりもした。そして、やろうとしてもできない人の気持ちを想像してみた。わかりかけてきたような気もするが、どうやっても絶対にわからないような気もする。できない友達がどうやっていたのかを必死に思い出そうとする。記憶の中で、実際は見えないし見ることができないはずなのに、「簡単、簡単」と言いながらクルクル回っているケイコ自身の姿がはつきり

と浮かんできた。そして、逆上がりをしているケイコをじっと見ているミユキの顔を思い出した。想像の中で、今度はミユキの真似をして、ミユキになってみようとする。

そのうちにケイコは、その、奇妙な、屈折した行為に夢中になった。

そのときだった。いつの間にか、ケイコの背後に知らないおじさんが立っていた。

「練習してるのかい」

おじさんはニツコリと笑いながらそう言った。ケイコはまるで悪事が見つかつたようにぎよつとした。その場から逃げだすこともできなくなったケイコは、少し恥ずかしそうな笑いを浮かべて、逆上がりができない真似を続けた。おじさんはそれ以上話しかけることもなく、ケイコの様子を少し離れた場所からじつと見ていた。

「お、今のは惜しかったぞ」

おじさんが言う。それはそうだ。ケイコは逆上がりが少しずつできるようになっていく真似をしているのだ。

「もつと脇^{わき}をしめて」

^④そんなことはわかっている。言われた通りに脇をしめる。そうすると、もう、できてしまいそうだ。どういう風に、どういうタイミングで成功するのが自然なのか。ケイコは必死になっていた。

そのときのケイコの心の中は、自分は何かとしてつもなく悪いことをしているという思いでいっぱいだった。でも、やめられない。やめるわけにはいかない。最後まで、真似を続けなければいけない。いや、むしろ、最後までやり通してしまおう方が、もつといけないのではないか……。

そしてとうとう、ケイコは逆上がりを成功させた。

「できたね」

おじさんはそう言ってまたニツコリ笑うと、そのまま帰っていきうとした。

「ちがうんです」

ケイコは叫んでいた。おじさんが振り返った。

「わたし、本当は逆上がりできるんです」

おじさんは少し驚いたような顔をしていたが、またあのニツコリした顔に戻って、そのまま公園を出ていった。おじさんはわかっている。おじさんはきつと誤解している。^⑤強がりと言ったのだと思っっている。でも、ケイコは追いかけて事情を説明しようとは思わなかった。きつと自分にはうまく説明できない。いったい何と言えればおじさんにわかってもらえるのか。おじさんにあやまりたい。でも、何と言つてあやまればいいのか。自分の気持ちを、うまく伝えることができない。自分の気持ちなのに、うまく説明できない。そんなこともできない自分が、何か、とても、^B歯がゆくて、さびしい。

ケイコはミユキたちの言葉を思い出していた。できない人の気持ちなんてわからないでしょ、とユカは言った。今ももちろんわからない。わかるなんて言えない。いくら真似を試みても、その人の気持ちなんてわからないのだ。

ただ、^⑥「ちがうんです」と叫んだときのケイコは、誰の真似でもないケイコだった。

空はもう暗くなっていた。ケイコが一人で立っている公園に、白い照明が灯った。

問一 波線部A「いわれの悪い悪口」・B「歯がゆくて」の意味としてふさわしいものを、それぞれ後のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

A いわれのない悪口

ア 理解できない悪口

イ 聞いたことがない悪口

ウ うれしくない悪口

エ 根拠がない悪口

オ 言い訳できない悪口

B 歯がゆくて

ア 寂しくて

イ 驚きあきれて

ウ もどかしくて

エ 申し訳なくて

オ 納得いかになくて

問二 傍線部①「今がチャンスだとケイコは思った」とあるが、「今がチャンスだ」とはどういうことか。左の説明文のⅠにふさわしい言葉を埋めて答えよ。

今の状況は、Ⅰ状況だということ。

問三 傍線部②「引つかかっていた何かがモヤモヤと大きくなっていく」とあるが、この時のケイコの気持ちはどのようなものか。それを説明した次のア～オからふさわしいものを一つ選び、記号で答えよ。

ア ミユキたちが自分のことをねたんでいるということが彼女たちの笑い方から分かってしまい、悲しくなっている。

イ ミユキたちは人の心がわからない自分を責めているのだと気付いたが、何も言い返すことができず混乱している。

ウ ミユキたちが「男子みたいにできる」と言って笑ったのは、明らかに自分をからかっていると感じ、怒っている。

エ ミユキたちの言葉や態度がどういう意味を持っているのか、ますます分からなくなり、不安を感じはじめている。

オ ミユキたちの言葉は自分をほめているのではなく、何か悪意のようなものが込められていると感じはじめている。

問四 傍線部③「できない人の真似をしてみようと考えた」のはなぜか、説明せよ。

問五 傍線部④「そんなことはわかっている」とあるが、どういうことか。左の説明文のⅡを、十五字以内の自分の言葉で埋めて答えよ。

ケイコは、「脇をしめる」のようなⅡをすでに知っているということ。

問六 傍線部⑤「強がりと言ったのだと思っている」とあるが、「強がりと言った」とはどういうことか。次のア～オからふさわしいものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 逆上りができたのは、おじさんのおかげではなく自分の実力なのだ自分勝手なことを言っているということ。

イ やつと逆上りができるようになったのに、本当は前からできると嘘をついて見栄を張っているということ。

ウ 逆上りができないふりをしていただけで、本当はもともと逆上りができるのだと打ち明けているということ。

エ 本当は以前から逆上りができていたということにして、初めて成功したうれしさをこまかしているということ。

オ 自分が不器用ではないことをわかってもらおうとして、逆上りができるという事実を強調しているということ。

問七 傍線部⑥「ちがうんです」と叫んだときのケイコは、誰の真似でもないケイコだった」とあるが、どういうことか。左の説明文のⅢ・Ⅳをそれぞれ二十字以内の自分の言葉で埋めて答えよ。

ケイコはそれまで、たいていのことはⅢが、このときの「ちがうんです」という言葉は、Ⅳ言葉だったということ。

解答は解答用紙(全2の1)に書け。

*の欄には記入しないこと。

受験番号

Blank box for student number.

二 問一

三 問二

四 問三

五 問四

六 問五

問一

問二 1

問三 2

問四 3

問五 4

様子。

様子。

四 問一

問二 2

問三 1

問四 ①

問五 ②

*

*

*

問一 A

問二 B

問三 C

問四

問五

問六

問七

*

*

*

ため。

問一 A

問二 B

問三

問四

問五

問六

問七

a

b

c

d

五 六

*

*

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

から。

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

*

*